

群馬県立榛名高等学校 学校評価一覧表 (令和7年度版)

(別紙様式)

羅 針 盤			方 策		点検・評価		達成度		達成状況のまとめ及び次年度の課題		学校関係者評価	
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート等	総合					
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 「チャレンジハイスクール」の取り組みを理解し、学習・体験学習・行事に積極的に参加する生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本学習、体験型自己開発学習(体験活動、資格取得)、人間づくり学習(挨拶、身だしなみ、ボランティア活動、学校行事への参加)の3つの柱を意識した教育活動を、学校生活の様々な場面で展開する。 生徒の実態に即し、成長を促すような授業や学校行事、体験活動の取組を工夫する。 各コースの特徴を生かし、生徒が興味・関心をもって取り組める学習内容を工夫し、学びへの関心を高める指導を行う。 学校行事、生徒会行事、部活動、ボランティア活動等への自主的な参加を通して、学校に誇りや関心がもてるようにする。 生徒の様子を観察し、必要に応じて声かけや話を聞くなどすることで、生徒一人ひとりの個に応じたきめ細かな指導を行う。 	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒、保護者から体験学習、行事に積極的に参加しているという回答が得られた。今後は行事を精選し、生徒が充実した学校生活を送れるように、指導の工夫・改善に努めたい。総合的な探究の時間においては、課題の設定から情報収集、各活動の振り返りを繰り返し行うことで、多角的な視点から課題を捉え、解決していくための資質・能力を育成することを目指したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「人間(ひと)づくり学習」として、「生活力・人間力」をより身に付けられるようボランティア活動への参加など、地域との交流をさらに促進できる機会を提供し、一層学びを深めていただきたい。コミュニケーションスキルのアップに止まらず、ボランティア活動から得られる成果は少なくないと思う。 向上的要素を加味しながら最大公約的な課題を求めらる。 				
		② コース別の特色ある学習活動に満足(期待)している生徒が80%以上である。		<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して本校のコース別学習に満足(期待)しているという回答が外部評価全体では80%以上得られた。新教育課程に対応した取り組みを実施できたので、次年度以降さらに満足した学習を生徒ができるように、コース制の充実を図ってきたい。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒と保護者・教職員との評価に差がある。教職員→保護者→生徒の順に評価が低くなっている。教職員は多くの生徒が学校を好きだと考えているが、実際は3割強の生徒が学校が好きではないと考えていることが問題点である。悩みを抱えた生徒たちに対し、教育相談的なアプローチとともに、生徒が学校を好きになるような活動を増やしていくことも今後の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 各コースの履修科目・内容が適切であることが、高評価の要因だと拝察する。一人一人の目的意識(目標)を一層明確化し、満足度がさらに高まるようご指導をお願いしたい。 教育課程の編成に、手ごたえや満足を感じているとの回答を得られていることから、引き続きコース制の充実を進めていただきたい。 			
		③ 自分の学校が好きだと感じている生徒が、80%以上である。		<ul style="list-style-type: none"> 短時間集中授業、少人数・TT等、多様な形態の授業を取り入れ、基礎・基本学習の充実を図る。 小中学校の学び直しの授業、分かる授業への授業改善を推進する。 様々な教科・科目の授業で、生徒が自分で考え、自分から取り組めるよう、主体的・対話的で深い学びの視点に立った指導を行う。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本学習の徹底を図ってきた結果、外部アンケートでは80%以上の達成度となった。教職員の評価がAとなっているのは、今年度の1年生の生徒数が少なく、個々の生徒にきめ細やかに指導できたことの結果と考える。スタティサプリ及びBYOD(クロームブックを含む)の活用を通して引き続き基礎・基本学習を徹底していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 本項は、極めて主観的な評価にならないため、評価項目として適当であるかご検討いただいた方がよいのではないかと感じる。(※教育相談的なアプローチや多種多様な活動等の取り組みは望ましいことではあるものの、その反面教職員の方々のさらなる負担増に繋がることが懸念される。) 「自律した学習者」の育成に結びつく自己肯定感、自己有用感につながる「特色ある教育活動」に係る内容及び具体的数値目標を掲げていただいた方が、より望ましいのではないかと考える。 生徒が榛名高校を好きではないと言っている部分はどの点なのか、分析する必要性を感じる。上記のコース別の学習には満足しているとの回答を得られていることから、来年度への改善につなげてほしい。 			
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 基礎・基本が身に付いたと感じている生徒が、80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 様々な教科・科目の授業で、生徒が自分で考え、自分から取り組めるよう、主体的・対話的で深い学びの視点に立った指導を行う。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に資格取得に取り組む生徒が増えてきている。結果に結びつくには時間のかかる生徒も多いので、根気強く指導していくことが重要である。総合アドバンスコース及び1年生へ資格取得の挑戦を促すことで、さらに生徒の意欲を高めてい。また保護者に向け検定への取組や結果についても連絡網を活用するなど広く情報を発信していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人に対するきめ細やかな対応は、教職員の皆さまの努力の賜物だと思う。引き続きの基礎・基本学習の徹底をお願いしたい。 				
		⑤ 課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の情報を共有し、全職員の共通理解の上で「個」に応じた指導をする。 登校時や授業の開始終了時等の挨拶を指導し励行する。 職員から積極的に挨拶し、校内で挨拶が交わされやすい雰囲気醸成を図る。 朝の「挨拶運動」を定期的継続的に行う。 生徒会や風紀交通委員等、生徒自身が率先して挨拶運動を実施する。 毎月「月例清掃」を実施し、生徒が校内美化や安全についての意識をもち、積極的に取り組めるよう指導する。 学校安全管理マニュアルを見直し、確認のシミュレーション(訓練)を年2回実施することで職員の共通理解を徹底する。 	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 左記記載のまとめでは、「総合アドバンスコース」に向けた表記がされているため、他の2コースに比べてなかなか結果に繋がらない状況下にある。または、目標設定がしにくい状況にあるのではないかと拝察する。動機づけが難しい面もあるが、実用英語技能検定等、一部の大学では入試における加点評価に繋がる他、大半の上級学校では英語の学びが必要となる。生徒が学ぶ意欲を高め、資格取得に向けた意欲の湧く環境を醸成していただきたい。 資格取得は良いことと思うが、入社面接など履歴書に列記してあると戸惑いを感じることもある。 					
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑥ 生徒情報交換会や学年会議が月1回以上開かれていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 定期的「学校生活(いじめ)に特化したアンケート」を実施し、生徒間のトラブルを早期に発見・解消する。 必要に応じ、二者面談を実施し、生徒の学校生活全般をサポートする。 	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 中学時に不登校傾向にあった生徒の影響もあり、欠席率や遅刻率の増加傾向が続いている。 悩みを抱えた生徒のカウンセリングが生徒の学校生活適応に役立っている。今後も、「学校生活アンケート」(いじめ防止対応)等、継続していきたい。 毎月の生活指導週間では、朝の登校時に職員、風紀交通委員、生徒会役員で生徒玄関に立ち「朝の挨拶運動」を行っている。生徒間同士でもさわやかな挨拶が交わされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校傾向にある生徒さんの欠席率・遅刻率の改善は、困難な面も多々あろうことと拝察する。欠席は当然のことながら外部からは分からないものの、遅刻と思われる生徒さんの姿が散見されるため、地域の者としても気にかかっている。 挨拶は、社会人となっても評価される部分だと思う。急によくはならないかもしれないが、地道な活動を続けることで、榛名高校の良き伝統となることを期待する。 				
		⑦ いじめの防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に進めている生徒・保護者が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 校内美化に対する意識がもてるよう、まずは身の回りの整理・整頓や細部の清掃を徹底し、普段行っている清掃を丁寧に行うとともに、毎月実施している「月例清掃」の充実を図ってきたい。 4月に地震を想定した避難訓練、1月に火災を想定し、消防署の指導も受けた避難訓練を行い、避難経路や避難場所など緊急時の対応について周知できた。やや防災意識が低い傾向にあるので、来年度は生徒の防災意識がより高められるよう実施していきたい。 	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 防災意識を高める取り組みは現実的に難しい面もあろうと思うが、可能な範囲で消防の方などによるレクチャーを依頼、実施するなど、工夫していただきたい。 					
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていますか。	⑧ 学校安全管理マニュアルを確認し、校内の美化、安全点検を定期的実施している。	⑨ いじめの防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に進めている生徒・保護者が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 家庭と連絡を密にし、保護者と連携を図って、基本的な生活習慣の定着を目指した指導を行う。 カウンセリングルームを活用し、悩みや困り感の解消の手助けをしながら、学校適応指導を行う。 毎月末を、生徒自身が自己の学校生活を点検する「学校生活点検日」とする。 定期的二者面談を実施し、相談しやすい環境を作る。 	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 内部評価と外部評価が分かれている。いじめの早期発見・防止のため、年に3回「学校生活アンケート」を、また年8回「学校生活点検日」を設け、生徒のいじめや悩み・不安の早期発見に努めている。しかしながら、学校評価アンケートでは、生徒が教員に悩み等を十分に相談できていないと感じている実態がある。二者面談等を適宜行い、また生徒が話しやすい雰囲気づくりを目指したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 表面化しにくいいじめ、SNSに起因するいじめは、貴校に限らず一定数起っているかと思う。引き続き、「話しやすい」環境、「安心してできる」環境づくりに努めていただきたい。 クラス数が少なく、移動が制限されるので、人間関係の対応など大変と思う。 			
			⑩ 全校の遅刻率3%以下、欠席率が4%以下である。	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階に応じたキャリア教育を推進するために、必要な知識を持った外部講師に講話等を依頼する。 地元企業関係者や卒業生を講師として積極的に活用する。 	C	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 欠席・遅刻等の欠席率は、昨年同様に増加傾向を示した。保護者は生徒を学校に送り出したと感じているものの、実際は途中で帰ってしまうなどの理由で登校しないことで欠席率が増加していることと推察される。 今年度は、スクールカウンセラーから「発達の特徴のある生徒の指導について」の研修を実施した。また自死防止に関しては、必要に応じてケース会議を開き、対応している。心配な生徒に関しては、長期的なサポートが重要である。 来年度は、生徒指導に関する重大な案件等の発生に備えて作成した緊急体制マニュアル等に従い、重大案件に際し、対応を徹底していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑩の回答で、職員と生徒とのとらえ方の違いが見られる部分が課題ではないかと考える。地元の中学校から貴校に進学している生徒の様子を見ても、教育相談面で手がかかる生徒が多いので、大変だと思うが、小さな学校の長所を生かした個別対応をさらに進めてほしい。「面倒臭い良い榛名高校」が、今後の榛名高校のアピールポイントになるのではないだろうか。 スクールカウンセラーによる「発達の特徴のある生徒の指導について」の研修が続いているので、同テーマでいつでも講師を変更するなどの工夫をされたい。 難しい年齢のよりどころとなる大切な項目である。 			
			⑪ 悩み、困りごとがあるときは先生やスクールカウンセラーに相談できると感じている生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症が収束し、コロナ以前のように外部講師を招いて発達段階に応じたキャリア教育を推進するためのガイダンス等を実施することができた。 先輩と語る会については、在校生にとって身近な今年度卒業予定者を講師として実施する。 	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 体験学習はキャリア教育に欠かせないので、生徒が満足を得られるように最善の方法を検討していきたい。今年度も多くの地元企業に協力していただき、生徒に体験する場を用意することができた。また、今年度の体験学習は例年より遅らせて実施した。実施時期については、修学旅行日程、企業の受け入れ態勢等を考えながら計画を立てていきたい。 担任が三者面談時に必要な情報を提供し、生徒と保護者の進路希望を掌握し、具体的な対策が立てられるように協力していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 受け身での体験となることは、生徒・受け入れ側双方にとって望ましい状況とは言えない。「体験を通して学んだ」ことの意味、その体験が将来にどうに結びつくか、生かされるのかを醸成しながらも理解することのできる取り組みとなれば、より体験の成果が表れるのではないかと感じる。 前回評価時も同様の評価内容であり、学校側のアプローチの限界もあろうかと思うので、評価内容を進路希望に対する取り組みを具体的にふりかえることのできる事項に変更した方が、尺度として適切なのではないかと考える。 体験学習の試みは大変有効な活動であると感じるが、生徒、保護者の評価が低い点はなぜなのか。この点についての分析は必要であるだろう。 			
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑫ 外部講師を活用した進路行事を年3回実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 体験型自己開発学習として、1学年で「福祉体験」「上級学校体験」、2学年で「職業体験」、3学年で「進路研究」を行う。 進路希望調査の結果をもとに、三者面談等を実施し三者の共通理解を図る。 	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校の様子を保護者に十分に伝えるためには、メール配信システムを活用して、一度だけでなく複数回保護者に学校の様子を伝えたり、学校Webページの充実を図り、生徒の学校での様子を理解できるよう工夫が必要である。 今年度は行えなかったが、PTA本部役員に協力を依頼し、保護者と協力して生徒を育てる活動を今後も行ってきたい。 夏季休業中に全保護者と、1月には1・2学年の全保護者と三者面談を行い、担任から学校の様子を伝えることができていた。今後もいろいろな場面で学校の様子を伝えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 前回の評価でも目標設定に対してスラッシュ(/)が入っていた項であるため、具体的な項目の内容及び数値目標を見直すか、キャリア教育に力点を置き、評価の指標とする方がよいのではないかと感じる。 				
		8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	<ul style="list-style-type: none"> 学年通信、保健便り、図書館便り等の各種の便りを定期的に発行するとともに、スマート連絡帳を通して保護者に学校の様子が確実に伝わるようにする。 Webページの充実とメディアの活用による地域への情報提供を図る。 学校行事への保護者の参加を呼びかけ、協力して生徒を育てる態勢をつくる。 PTA総会、講演会、三者面談等、保護者が学校に出向いて学校の様子を知る機会を積極的に計画する。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 学習用端末を授業に活用していることが全体を通して評価されたと思われる。今年度もBYODの導入に係る初期設定に苦労した。今後も、ICTを有効に活用し、生徒の学習意欲を高め、生徒が学び合ったり、教員との双方向の学習が充実するように教科指導を行ってきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「(PTA本部役員に協力を依頼した上で)保護者と協力して生徒を育てる活動」については、前回も盛り込まれていた内容かと思う。実現可能性が薄いようであれば、学校Webページの充実や力点を置くなど、極力教職員の方々に過度な負担が生じず、かつ効果的だと思われる取り組みに注力した方がよいのではないかと感じる。本項に係る内容については、優先順位を決めて対応された方がよいと思う。 				
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑬ 学校の取り組みをよく理解しているという保護者が、80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を用いて生徒の学習意欲を向上させたり、調べ学習やグループ学習での意見交換、発表などを行うことで、双方向的な学習活動を充実させる。 タブレット端末等を利用した授業づくりを職員に紹介したり、研修の機会を設けたりする。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員・生徒に対する学校評価アンケートを情報端末で行うことができ、大幅な業務改善となった。今年度は保護者に対してのアンケートの実施も行うことができたが、回答率の向上が課題となった。今後もGoogleフォームを使ったアンケートなどを各分掌で積極的に取り入れていくことも業務改善につながると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器に馴染みにくい教科もあろうかと思うが、高評価は教職員の皆さまの尽力によるもの。引き続きの推進をお願いしたい。 				
		⑭ 生徒の進路希望に理解を示している保護者が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議の資料をデジタル化して提示することでペーパーレス化を図り、印刷業務を軽減する。 Googleフォームを使ったアンケートを生徒・保護者に実施して、集計の効率化を図る。また、連絡ツールのデジタル化によって連絡の効率化を図る。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 満足度の高いことは業務改善に係る評価に大きく繋がるが、一定数学習用端末でのアンケートやスクールネットメール連絡網による連絡方法に満足していない層が確認されるため、可能な範囲で状況把握を行い、漏れの生じないよう努めていただきたい。 					
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑯ ICT機器を使った授業に満足している生徒・保護者が80%以上である。		A	A	A						
		⑰ オンラインによるアンケートや通知に、生徒・保護者の80%以上が満足している。		A	A	A						